稚内市男女共同参画市民意識調査
結果報告書

平成３０年６月

稚内市

目　　次

Ⅰ　アンケート調査の概要　１

１　調査の概要

２　調査結果の表示について

Ⅱ　調査結果　３

・あなた自身のことについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

（問１）性別

（問２）年齢

（問３）職業

（問４）結婚

（問４－１）配偶者の職業

（問５）結婚についての考え方

（問６）離婚についての考え方

（問７）子育ての経験

（問８）世帯構成

・男女平等意識について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

（問９）男女平等参画の言葉の認知度

（問１０）男女の地位

（問１１）男女の平等処遇機会の平等を確保するために必要なこと

・家庭生活について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

（問１２）家事や子育て、介護の担い手

（問１３）夫婦の役割や子育てに関する考え方

・社会活動・地域活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

（問１４）参加したことがある活動（仕事・家庭生活以外）

（問１４－１）参加したことがない理由

（問１５）性別により活動を断念した経験

（問１５－１）断念した活動及び理由

・教育について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

（問１６）男女共同参画社会を実現するために小・中学校で取り組む必要があること

・就労について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

（問１７）女性が職業を持つこと、持ち続けること

（問１８）女性の働きやすさ

（問１８－１）働きやすいと思われる理由
（問１８－２）働きづらいと思われる理由
（問１９）よりよく暮らしていくために必要な環境整備
・「少子・高齢化」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
（問２０）少子化の理由
（問２１）少子化を解決するために重要なこと
（問２２）本市での出産・子育て
（問２２－１）出産・子育てをしたい・したくない理由
（問２３）本市の子育て環境
（問２４）自分の老後への不安
（問２４－１）老後への不安の理由
（問２４－２）老後の生活を充実したものにするために必要なこと
・人権・男女間の暴力について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
（問２５）女性の人権が尊重されていないと思うこと
（問２６）ＤＶ被害の経験（家族や友人）及び認知度
（問２７）ＤＶ被害の経験（本人）
（問２７－１）ＤＶの被害内容
（問２７－２）ＤＶ被害を受けたときの相談
（問２７－３）相談先
（問２７－４）相談しなかった理由
（問２７－５）男女間の暴力をなくすために必要なこと
（問２７－６）ＤＶに関する相談窓口の認知度
・女性の政策参画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
（問２８）女性の意見の反映度（政治・職場・地域活動の場）
（問２９）女性が進出していくために必要な事（政治・職場・地域活動の場）
（問３０）男女共同参画社会の実現のために行政が取り組む必要があること
・その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
（問３１）男女共同参画についての考えやご意見（自由記述）

■調査用紙・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

意識調査の概要

１　調査の概要

◆調査の目的

稚内市における男女を取り巻く様々な課題について、市民の意識や実態を把握するとともに、「第３次稚内市男女共同参画行動計画（平成 31 年度～平成 35 年度）」策定に向けての基礎資料とするために実施しました。

◆調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	稚内市に居住する 20 歳以上の男女 2,000 人
抽出方法	住民基本台帳名簿による年齢別無作為抽出
実施主体	稚内市
調査の配布・回収	郵送による配布・回収
調査期間	平成 30 年 4 月 13 日（金）～平成 30 年 5 月 4 日（金）

◆回収結果

有効回収数	622 件
有効回収率	31.1%

２　調査結果の表示について

・この結果報告書に掲載している数値は四捨五入の端数処理をしているため、合計と内訳の合計が一致しない場合があります。

・属性（性別）無回答であった人の回答は、全体集計には含んでいますが、属性ごとの集計には含んでいません。

・複数回答（選択肢を複数選べる設問）となっている設問の数値は、各選択肢を何%の人が選んだかを表します。

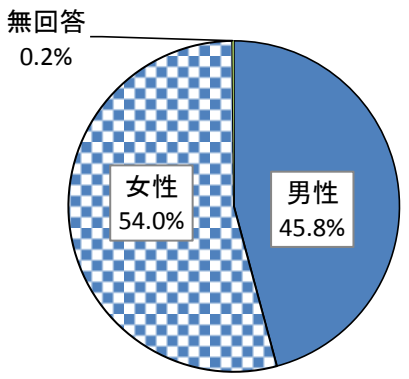
男女共同参画市民意識調査集計結果

あなた自身のことについて

【問１】性別

回答者の54%が女性となっています。

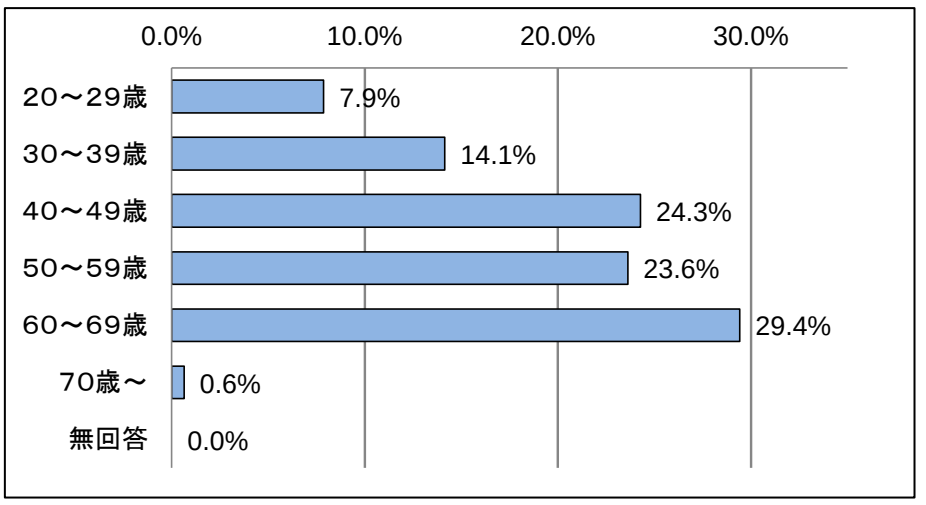
選 択 肢	回答数	割合
男性	285人	45.8%
女性	336人	54.0%
無回答	1人	0.2%
合　　計	622人	100.0%



【問２】年齢

60歳代の回答者が最も多くなっています。

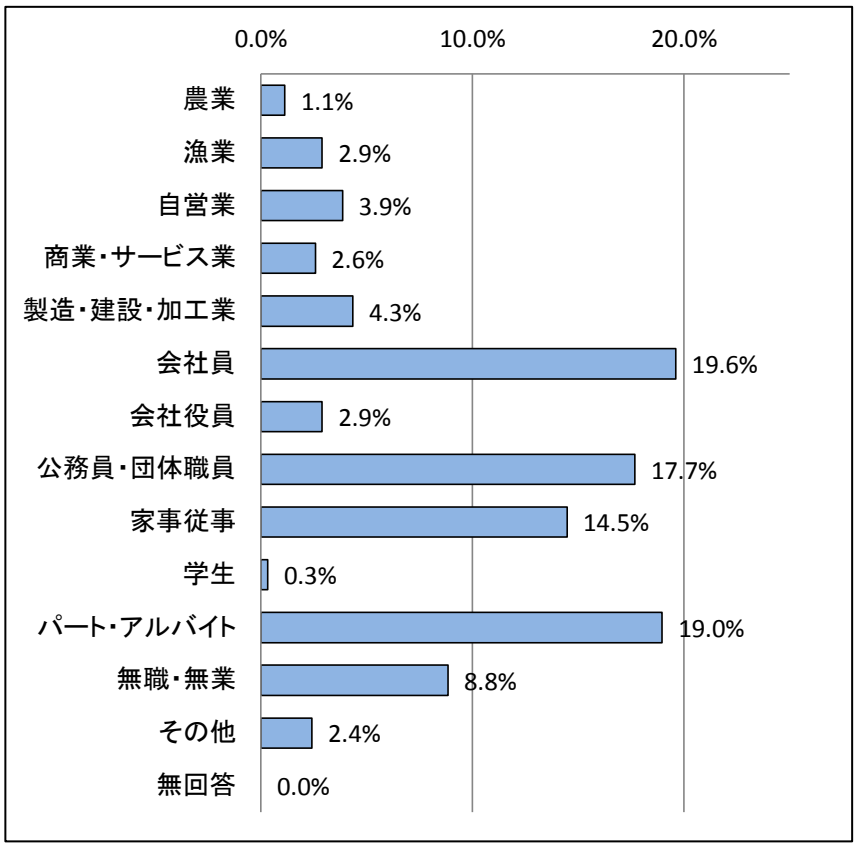
選 択 肢	回答数	割合
２０～２９歳	49人	7.9%
３０～３９歳	88人	14.1%
４０～４９歳	151人	24.3%
５０～５９歳	147人	23.6%
６０～６９歳	183人	29.4%
７０歳～	4人	0.6%
無回答	0人	0.0%
合　　計	622人	100.0%



【問３】職業

回答者の19.6%が「会社員」で最も多く、これに「パート・アルバイト」が続いています。

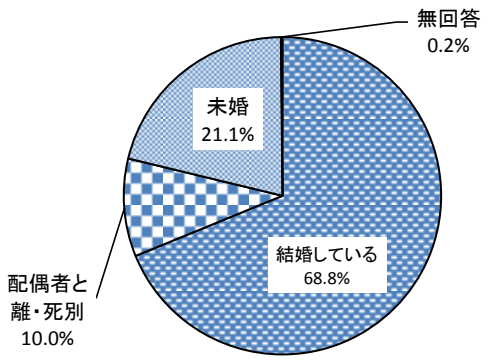
選 択 肢	回答数	割合
農業	7人	1.1%
漁業	18人	2.9%
自営業	24人	3.9%
商業・サービス業	16人	2.6%
製造・建設・加工業	27人	4.3%
会社員	122人	19.6%
会社役員	18人	2.9%
公務員・団体職員	110人	17.7%
家事従事	90人	14.5%
学生	2人	0.3%
パート・アルバイト	118人	19.0%
無職・無業	55人	8.8%
その他	15人	2.4%
無回答	0人	0.0%
合　　計	622人	100.0%



【問４】あなたは現在、結婚されていますか。

「結婚している」の回答が、68.8%となっています。

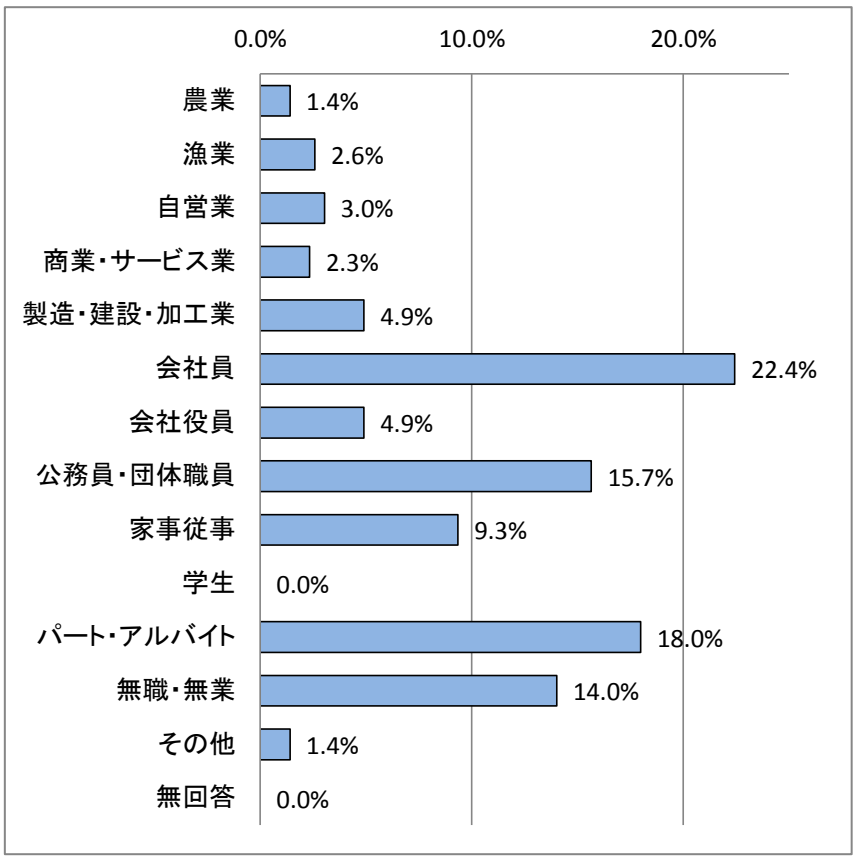
選 択 肢	回答数	割合
結婚している	428人	68.8%
配偶者と離・死別	62人	10.0%
未婚	131人	21.1%
無回答	1人	0.2%
合　　計	622人	100.0%



【問４－１】配偶者の職業

22.4%の「会社員」が最も多く、これに「パート・アルバイト」が続いています。

選 択 肢	回答数	割合
農業	6人	1.4%
漁業	11人	2.6%
自営業	13人	3.0%
商業・サービス業	10人	2.3%
製造・建設・加工業	21人	4.9%
会社員	96人	22.4%
会社役員	21人	4.9%
公務員・団体職員	67人	15.7%
家事従事	40人	9.3%
学生	0人	0.0%
パート・アルバイト	77人	18.0%
無職・無業	60人	14.0%
その他	6人	1.4%
無回答	0人	0.0%
合　　計	428人	100.0%



【問５】結婚についてどう思いますか。あてはまるものを１つ選んでください。

「結婚する、しないは個人の自由であるからどちらでもよい」が55.3%となっています。

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
結婚した方がいい	182人	29.3%	36.5%	23.2%
経済的に独立し生活できるのであれば、結婚しなくても良い	47人	7.6%	6.3%	8.6%
結婚する、しないは個人の自由であるからどちらでもよい	344人	55.3%	48.4%	61.0%
その他	6人	1.0%	1.8%	0.3%
無回答	43人	6.9%	7.0%	6.8%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

■その他への記入事項
・結婚より子孫を残すことが重要
・少子化にならないようにするため
・一人の女性として、結婚、出産、育児etc、気がつけば・・・さい。息子は子育て中ですが娘も、結婚、出産、育児をして、両親の大変さを感じてほしいです
・入籍せず事実婚もありだと思う
・生活形態の一つ、直接的な利点は感じない

（問５で「結婚した方がいい」と回答した方だけお答えください）
その理由について、あてはまるものを１つ選んでください。

「それが人としての幸せだから」が最も多く22.5%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
結婚することが普通だから	34人	18.7%
一人前になるため	27人	14.8%
子どもが欲しいから	34人	18.7%
それが人としての幸せだから	41人	22.5%
世間体があるから	1人	0.5%
経済的に自立していないから	2人	1.1%
なんとなく	11人	6.0%
その他	21人	11.5%
無回答	11人	6.0%
合　　計	182人	100.0%

■その他への記入事項
・成長できる（3件）
・将来一人では淋しい・不安（3件）
・家族が世の基本であり、その集合体が国となるから
・ともに生活、生きることに意味を持てたから
・人間は一人では生きていけないから
・他人との共同生活を経験（2件）
・人生経験の幅が増える
・長い人生良い人がいれば老後を考えるとやはり配偶者
・色んなことが共有できる
・家族をつくる
・少子化対策として（3件）
・老後の助け合い
・精神的、経済的安定、家族で助け合える

【問６】離婚についてどう思いますか。あてはまるものを１つ選んでください。

「それぞれの事情があってのことなのでなんともいえない」が最も多く51.8%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
夫婦は決して離婚すべきではない	20人	3.2%
子どもがいれば離婚すべきではないが、子どもがいなければ離婚してもかまわない	41人	6.6%
経済的に独立し生活できるのであれば離婚してもかまわない	27人	4.3%
互いに納得できれば離婚してもかまわない	168人	27.0%
それぞれの事情があってのことなのでなんともいえない	322人	51.8%
わからない	11人	1.8%
その他	10人	1.6%
無回答	23人	3.7%
合　　計	622人	100.0%

■その他への記入事項
・事情にもよるが、子供が18歳になるまでは離婚しないほうがいいと思う
・離婚することが必要となる以前のお互いの尊重信頼があると、そのような時が来ることはないと考える
・一緒にいたくなくなったら離婚すればいい
・身勝手な離婚が多く感じる
・出来れば離婚すべきではない
・DV等の問題がなければ離婚すべきでない
・解決時の手間が多いように感じる
・心や体に暴力をする以外は多少我慢してみては。気が合わないとすぐ別れるという感じが多いと思う

【問７】子育ての経験はありますか。あてはまるものを１つ選んでください。

「ある」の回答が、67.8%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
ある	422人	67.8%
ない	183人	29.4%
無回答	17人	2.7%
合　　計	622人	100.0%

【問８】世帯構成について、あてはまるものを１つ選んでください。

「夫婦世帯」が最も多く、33.6%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
単身世帯	114人	18.3%
夫婦世帯	209人	33.6%
夫婦と子どもの世帯（２世代）	166人	26.7%
親・子・孫３代にわたる世帯（３世代）	56人	9.0%
その他	61人	9.8%
無回答	16人	2.6%
合　　計	622人	100.0%

男女平等意識について

【問９】「男女共同参画」という言葉を知っていますか。あてはまるものを１つ選んでください。

「言葉も内容も知っている」が最も多く、38.1%となっています。

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
言葉も内容も知っている	237人	38.1%	45.6%	31.8%
言葉を知っているが内容までは知らない	230人	37.0%	34.4%	39.3%
言葉も内容も知らない	150人	24.1%	19.6%	27.7%
無回答	5人	0.8%	0.4%	1.2%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

【問１０】男女の地位は平等になっていると思いますか。
それぞれあてはまる数字を１つ選んでください。

「平等である」が5割弱で最も多かったのは③でした。
①②④⑥の4項目については2割前後で、⑤⑦の2項目は1割弱に留まっています。
全ての項目において、女性が「男性がかなり優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答している合計が多くなっています。

①家庭生活

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 男性がかなり優遇されている	74人	11.9%	8.8%	14.6%
2. どちらかといえば男性が優遇されている	222人	35.7%	31.2%	39.6%
3. 平等である	145人	23.3%	33.3%	14.9%
4. どちらかといえば女性が優遇されている	44人	7.1%	8.8%	5.7%
5. 女性がかなり優遇されている	11人	1.8%	2.5%	1.2%
6. どちらともいえない	90人	14.5%	10.5%	17.6%
7. わからない	22人	3.5%	3.9%	3.3%
無回答	14人	2.3%	1.1%	3.3%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

②職場

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 男性がかなり優遇されている	92人	14.8%	12.3%	17.0%
2. どちらかといえば男性が優遇されている	274人	44.1%	41.4%	46.1%
3. 平等である	107人	17.2%	22.5%	12.8%
4. どちらかといえば女性が優遇されている	23人	3.7%	5.6%	2.1%
5. 女性がかなり優遇されている	12人	1.9%	2.5%	1.5%
6. どちらともいえない	66人	10.6%	10.5%	10.7%
7. わからない	30人	4.8%	3.2%	6.3%
無回答	18人	2.9%	2.1%	3.6%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

③学校教育の場

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 男性がかなり優遇されている	13人	2.1%	2.5%	1.8%
2. どちらかといえば男性が優遇されている	72人	11.6%	10.2%	12.8%
3. 平等である	288人	46.3%	49.8%	43.5%
4. どちらかといえば女性が優遇されている	22人	3.5%	4.9%	2.1%
5. 女性がかなり優遇されている	1人	0.2%	0.4%	0.0%
6. どちらともいえない	88人	14.1%	13.3%	14.9%
7. わからない	118人	19.0%	16.5%	21.1%
無回答	20人	3.2%	2.5%	3.9%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

④地域活動の場（町内会など）

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 男性がかなり優遇されている	31人	5.0%	3.2%	6.5%
2. どちらかといえば男性が優遇されている	148人	23.8%	23.5%	24.1%
3. 平等である	182人	29.3%	36.8%	22.9%
4. どちらかといえば女性が優遇されている	20人	3.2%	3.2%	3.3%
5. 女性がかなり優遇されている	8人	1.3%	2.5%	0.3%
6. どちらともいえない	111人	17.8%	14.7%	20.2%
7. わからない	103人	16.6%	14.0%	18.8%
無回答	19人	3.1%	2.1%	3.9%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

⑤政治の場

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 男性がかなり優遇されている	206人	33.1%	26.3%	39.0%
2. どちらかといえば男性が優遇されている	221人	35.5%	37.2%	34.2%
3. 平等である	56人	9.0%	14.7%	4.2%
4. どちらかといえば女性が優遇されている	6人	1.0%	1.1%	0.9%
5. 女性がかなり優遇されている	4人	0.6%	1.4%	0.0%
6. どちらともいえない	52人	8.4%	9.8%	6.8%
7. わからない	63人	10.1%	8.4%	11.6%
無回答	14人	2.3%	1.1%	3.3%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

⑥法律や制度上

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 男性がかなり優遇されている	61人	9.8%	6.7%	12.5%
2. どちらかといえば男性が優遇されている	207人	33.3%	28.4%	37.5%
3. 平等である	127人	20.4%	29.8%	12.5%
4. どちらかといえば女性が優遇されている	32人	5.1%	7.7%	3.0%
5. 女性がかなり優遇されている	13人	2.1%	3.5%	0.9%
6. どちらともいえない	89人	14.3%	14.7%	13.7%
7. わからない	76人	12.2%	8.1%	15.8%
無回答	17人	2.7%	1.1%	4.2%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

⑦社会通念・慣習・しきたり

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 男性がかなり優遇されている	139人	22.3%	20.0%	24.4%
2. どちらかといえば男性が優遇されている	280人	45.0%	44.9%	45.2%
3. 平等である	40人	6.4%	8.4%	4.5%
4. どちらかといえば女性が優遇されている	11人	1.8%	2.1%	1.5%
5. 女性がかなり優遇されている	7人	1.1%	2.1%	0.3%
6. どちらともいえない	83人	13.3%	15.4%	11.6%
7. わからない	47人	7.6%	5.3%	9.5%
無回答	15人	2.4%	1.8%	3.0%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

【問１１】今後、男女が社会のあらゆる分野に参画し、対等に処遇される機会の平等を確保するためには、
どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものを３つまで選んでください。

「家庭と仕事を両立できるような職場のシステムづくり」が最も多く、20%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
法律や制度の見直し	161人	10.0%
家庭や学校で、男女平等についての教育内容を充実	120人	7.4%
職場内での男女平等処遇の徹底	147人	9.1%
家庭と仕事を両立できるような職場のシステムづくり	324人	20.0%
地域活動や社会活動への参画を支援するための環境の整備	41人	2.5%
企業や行政などの重要な役割に女性を登用	57人	3.5%
個人の自覚と知識・能力の向上	171人	10.6%
男女を取り巻く様々な偏見、社会通念やしきたり、慣習の見直し	258人	16.0%
女性の政治・職場・社会活動への積極的な参画	43人	2.7%
女性の経済力の向上	137人	8.5%
女性の就業を支援する施設やサービスの充実	127人	7.9%
その他	11人	0.7%
無回答	19人	1.2%
合　　計	1,616人	100.0%

■その他への記入事項
・男女共同参画という考え自体が女性が弱者という視点なのでやめてほしい
・女性は女性にしかできない良さ。男性には男性の良さを生かせる職場
・男女平等社会は構築されているので制度設計は不要（２件）
・女尊男卑の解消
・平等はありえない！！
・ないです。女性の方が優遇されていると思います
・男女、社会の意識の見直し

家庭生活について

【問１２】あなたの家庭では、家事は主にどなたが担われていますか。
それぞれあてはまる数字を１つ選んでください。

全ての項目において、「自分（女性）が担っている」の回答が最も多く、これに「配偶者が担っている（男性が回答）」が続いています。

①食事の支度

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 自分が担っている	321人	51.6%	17.9%	80.4%
2. 配偶者が担っている	160人	25.7%	55.4%	0.6%
3. 親が担っている	50人	8.0%	11.6%	5.1%
4. その他の人が担っている	7人	1.1%	1.4%	0.9%
5. 家族で役割分担し自分も一部を担っている	71人	11.4%	11.6%	11.0%
無回答	13人	2.1%	2.1%	2.1%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

②食事の後片付け

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 自分が担っている	313人	50.3%	21.4%	75.0%
2. 配偶者が担っている	114人	18.3%	36.5%	3.0%
3. 親が担っている	32人	5.1%	7.7%	3.0%
4. その他の人が担っている	12人	1.9%	2.5%	1.5%
5. 家族で役割分担し自分も一部を担っている	138人	22.2%	29.5%	15.8%
無回答	13人	2.1%	2.5%	1.8%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

③食料品や日用品の買い物

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 自分が担っている	315人	50.6%	23.2%	74.1%
2. 配偶者が担っている	91人	14.6%	30.5%	1.2%
3. 親が担っている	26人	4.2%	6.0%	2.7%
4. その他の人が担っている	5人	0.8%	1.1%	0.6%
5. 家族で役割分担し自分も一部を担っている	170人	27.3%	36.8%	19.0%
無回答	15人	2.4%	2.5%	2.4%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

④洗濯

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 自分が担っている	331人	53.2%	20.4%	81.3%
2. 配偶者が担っている	141人	22.7%	48.1%	0.9%
3. 親が担っている	31人	5.0%	8.4%	2.1%
4. その他の人が担っている	3人	0.5%	0.7%	0.3%
5. 家族で役割分担し自分も一部を担っている	103人	16.6%	20.4%	13.4%
無回答	13人	2.1%	2.1%	2.1%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

⑤掃除

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 自分が担っている	322人	51.8%	22.5%	76.8%
2. 配偶者が担っている	119人	19.1%	39.6%	1.8%
3. 親が担っている	22人	3.5%	4.9%	2.4%
4. その他の人が担っている	6人	1.0%	1.4%	0.6%
5. 家族で役割分担し自分も一部を担っている	139人	22.3%	29.5%	16.1%
無回答	14人	2.3%	2.1%	2.4%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

⑥ゴミ出し

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 自分が担っている	308人	49.5%	42.5%	55.4%
2. 配偶者が担っている	119人	19.1%	20.7%	17.9%
3. 親が担っている	39人	6.3%	6.0%	6.5%
4. その他の人が担っている	9人	1.4%	1.8%	1.2%
5. 家族で役割分担し自分も一部を担っている	134人	21.5%	27.0%	17.0%
無回答	13人	2.1%	2.1%	2.1%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

⑦家計の管理

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 自分が担っている	330人	53.1%	28.8%	73.5%
2. 配偶者が担っている	152人	24.4%	43.9%	8.0%
3. 親が担っている	36人	5.8%	7.0%	4.8%
4. その他の人が担っている	7人	1.1%	1.4%	0.9%
5. 家族で役割分担し自分も一部を担っている	77人	12.4%	15.8%	9.5%
無回答	20人	3.2%	3.2%	3.3%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

⑧育児

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 自分が担っている	84人	13.5%	1.4%	23.8%
2. 配偶者が担っている	34人	5.5%	11.2%	0.3%
3. 親が担っている	1人	0.2%	0.0%	0.3%
4. その他の人が担っている	3人	0.5%	0.7%	0.3%
5. 家族で役割分担し自分も一部を担っている	74人	11.9%	16.8%	7.7%
無回答（非該当者含む）	426人	68.5%	69.8%	67.6%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

⑨家族の介護

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 自分が担っている	36人	5.8%	1.1%	9.5%
2. 配偶者が担っている	11人	1.8%	3.5%	0.3%
3. 親が担っている	4人	0.6%	0.7%	0.6%
4. その他の人が担っている	9人	1.4%	1.8%	1.2%
5. 家族で役割分担し自分も一部を担っている	21人	3.4%	3.5%	3.3%
無回答（非該当者含む）	541人	87.0%	89.5%	85.1%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

【問１３】夫婦の役割や子育てに関する考え方について、
それぞれあてはまる数字を１つ選んでください。

①の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の回答は、22.7%となっています。
②③の2項目については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の回答が多く、
女性より男性の回答が多くなっています。

①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. そう思う	27人	4.3%	5.6%	3.3%
2. どちらかといえばそう思う	114人	18.3%	18.6%	17.9%
3. どちらかといえばそう思わない	62人	10.0%	10.2%	9.8%
4. そう思わない	251人	40.4%	39.6%	41.1%
5. どちらともいえない	145人	23.3%	22.1%	24.4%
6. わからない	7人	1.1%	1.8%	0.6%
無回答	16人	2.6%	2.1%	3.0%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

②子どもは３歳くらいまで母親が家庭で育てるべきである

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. そう思う	132名	21.2%	22.1%	20.5%
2. どちらかといえばそう思う	175名	28.1%	28.4%	28.0%
3. どちらかといえばそう思わない	40名	6.4%	6.7%	6.0%
4. そう思わない	134名	21.5%	18.6%	24.1%
5. どちらともいえない	108名	17.4%	17.9%	17.0%
6. わからない	16名	2.6%	3.9%	1.5%
無回答	17名	2.7%	2.5%	3.0%
合　　計	622名	100.0%	100.0%	100.0%

③女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. そう思う	99名	15.9%	22.8%	10.1%
2. どちらかといえばそう思う	145名	23.3%	26.7%	20.5%
3. どちらかといえばそう思わない	50名	8.0%	6.7%	8.9%
4. そう思わない	171名	27.5%	21.8%	32.4%
5. どちらともいえない	123名	19.8%	17.5%	21.7%
6. わからない	19名	3.1%	3.2%	3.0%
無回答	15名	2.4%	1.4%	3.3%
合　　計	622名	100.0%	100.0%	100.0%

社会活動・地域活動について

【問１４】これまでに仕事・家庭生活以外で、どのような活動に参加したことがありますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

「町内会・子ども会・婦人会」が最も多く、23.7%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
町内会・子ども会・婦人会	311人	23.7%
ボランティア活動	167人	12.7%
PTA活動	236人	18.0%
グループでの学習活動	55人	4.2%
グループでのスポーツ活動	157人	12.0%
グループでのスポーツ活動以外の趣味活動	81人	6.2%
住民運動	8人	0.6%
消費者運動、生活協同組合	8人	0.6%
宗教活動	21人	1.6%
労働組合、政治活動	70人	5.3%
国際交流活動	13人	1.0%
審議会、委員会などの公的活動	28人	2.1%
その他	8人	0.6%
参加しているものはない	139人	10.6%
無回答	11人	0.8%
合　　計	1,313人	100.0%

（問１４で「参加しているものはない」と回答した方だけお答えください）
【問１４－１】その理由について、あてはまるものをすべて選んでください。

「興味・関心がないから」が最も多く、33.8%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
仕事が忙しいから	60人	27.8%
家事・育児が忙しいから	11人	5.1%
家族の協力が得られないから	1人	0.5%
健康上の理由から	14人	6.5%
介護が忙しいから	3人	1.4%
情報が少ないから	23人	10.6%
活動する仲間がいないから	22人	10.2%
興味・関心がないから	73人	33.8%
その他	8人	3.7%
無回答	1人	0.5%
合　　計	216人	100.0%

【問１５】自分でやってみたいと思った活動に対し、自分の性別が壁となりそれをあきらめなければならなかった経験はありますか。
あてはまるものを１つ選んでください。

選 択 肢	回答数	割合
ある	11人	1.8%
ない	579人	93.1%
無回答	32人	5.1%
合　　計	622人	100.0%

（問１５で「ある」と回答した方だけお答えください）
【問１５－１】　それはどのような活動で、あきらめた理由はどのようなことでしたか。

（どのような活動ですか）
- 野球（少年団）
- 仕事（運送業）
- 大学進学
- 選挙

（あきらめなければならなかった理由はなんですか）
- 当時男子部員しかいなかったため反対された
- 筋力が追い付かず、けがをし、仕事を続けられなかった
- 親の「女に学は要らない」「結婚して子供を産めばレジ打ちしかしないから女に大学は行かせない」と阻止された。落ち着いたら学び直ししようと思う
- 受付が男女で分かれてたから、行きたくてもいけない

教育について

【問１６】男女共同参画社会を実現するためには、小さい頃からの教育が大切であるといわれていますが、小学校・中学校で取り組む必要があると思うことはどのようなことですか。
あてはまるものを３つまで選んでください。

「学校での指導において、男女の別なく個性を活かせるように配慮する」が最も多く29.6%となっており、これに「男女平等の意識を育てる授業をする」が23.3%で続いています。

選 択 肢	回答数	割合
出席簿や並び方の順番など、男女を分ける慣習をなくす	98人	7.7%
学校での指導において、男女の別なく個性を活かせるように配慮する	378人	29.6%
教員に対して、男女共同参画に関する研修を充実する	116人	9.1%
男女平等の意識を育てる授業をする	298人	23.3%
人権に関する授業をする	266人	20.8%
保護者会などを通じ、男女平等教育を啓発する	72人	5.6%
その他	21人	1.6%
無回答	30人	2.3%
合　　計	1,279人	100.0%

就労について

【問１７】女性が職業を持つこと、持ち続けることについてどのように思いますか。
あてはまるものを１つ選んでください。

「結婚・育児等に関係なく職業を持ち続けるのが良い」が最も多く、46.8%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
女性は職業を持たない方が良い	3人	0.5%
結婚するまでは職業を持つ方が良い	24人	3.9%
出産するまでは職業を持つ方が良い	27人	4.3%
育児中は休業、子育て後に再就職するのが良い	170人	27.3%
結婚・育児等に関係なく職業を持ち続けるのが良い	291人	46.8%
わからない	45人	7.2%
その他	49人	7.9%
無回答	13人	2.1%
合　　計	622人	100.0%

■その他への記入事項
・個人の自由（27件）
・それぞれの家庭や生活、環境などの事情による（8件）
・各々の環境によりベストを尽くせるような制度があればよいと思います。出産は女性しかできませんね
・子どもが産まれても働いてもいいが同僚に迷惑をかけるなら考えた方がいい
・どちらともいえない
・男女関係なく自分の意志で仕事をするタイミングを選べるといいと思う
・身体に負担がかからない程度ですればいい
・給料・貯蓄による（2件）

【問１８】今の社会は、女性が働きやすい状況にあると思いますか。
あてはまるものを１つ選んでください。

「あまり働きやすくない」が最も多く、36.7%となっています。

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
働きやすい	21人	3.4%	5.3%	1.8%
おおむね働きやすい	129人	20.7%	22.8%	18.8%
あまり働きやすくない	228人	36.7%	34.4%	38.7%
働きづらい	100人	16.1%	14.4%	17.6%
わからない	127人	20.4%	20.0%	20.8%
その他	5人	0.8%	1.4%	0.3%
無回答	12人	1.9%	1.8%	2.1%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

（問１８で「働きやすい」、「おおむね働きやすい」と回答した方だけお答えください）
【問１８－１】働きやすいと思われる理由はどのようなことですか。

産休・育休等の制度や職場環境の充実、男女共同参画の考え方が浸透しているなどの意見が多く見受けられました。

・産休、育休などの制度が充実している、休暇が取りやすくなっている（20件）
・子育てしやすい環境になってきている（9件）
・男女共同参画社会が取り沙汰され始め、浸透しつつある（5件）
・女性の働く場が増えた（18件）
・差別などを受けたことがない（11件）

（問１８で「あまり働きやすくない」、「働きづらい」と回答した方だけお答えください）
【問１８－２】働きづらいと思われる理由はどのようなことですか。
あてはまるものをすべて選んでください。

「家事・育児と仕事の両立が難しい」が最も多く14.3%となっており、、これに「育児で退職後の再就職（正職員）が難しい」が9.1%で続いています。

選 択 肢	回答数	割合
家事・育児と仕事の両立が難しい	237人	14.3%
家事・介護と仕事の両立が難しい	117人	7.0%
育児で退職後の再就職（正職員）が難しい	151人	9.1%
保育制度や施設が充分ではない	139人	8.4%
「男は仕事、女は家庭」という社会通念が強い	69人	4.2%
結婚、出産退職の慣行がある	57人	3.4%
育児休業が取れない、育児制度が整っていない	118人	7.1%
能力を正当に評価されない	54人	3.3%
性別によって昇進・給与・教育訓練に差がある	86人	5.2%
能力を発揮する場がない	23人	1.4%
働く場が限られている	122人	7.3%
職場や職場の周りの人々の理解が得にくい	92人	5.5%
家族の理解、協力が得にくい	34人	2.0%
セクシュアル・ハラスメント（性的な嫌がらせ）の被害にあうことがある	52人	3.1%
その他	12人	0.7%
無回答	298人	17.9%
合　　計	1,661人	100.0%

■その他への記入事項
・モラハラ・パワハラ
・有給・産休・育休など、制度はあるが取りにくい雰囲気がある（5件）
・子育て中だということ、能力がない＝女だからといわれる職場がある
・男性の家事能力・育児に対する意識が低い
・夫の転勤についていかなければならなかった
・税制面での問題
・男性の働きやすさについてもアンケートを取るべきでは？

【問１９】夫婦が仕事や家庭のバランスをとり、よりよく暮らしていくために必要な環境整備はどのようなことだと思いますか。
あてはまるものを３つまで選んでください。

「男女を問わず、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」が最も多く19.1%となっており、これに「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」が13.6%で続いています。
その他の回答では、給与の引き上げなどの意見が多く見受けられました。

選 択 肢	回答数	割合
男女を問わず、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること	303人	19.1%
育児・介護休業中の賃金の手当てなどの経済的支援を充実すること	187人	11.8%
地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実する事	130人	8.2%
職場以内に保育施設を整備すること	82人	5.2%
在宅勤務やフレックスタイム制度などの柔軟な勤務制度を導入すること	110人	6.9%
残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること	66人	4.2%
子育てや介護などを理由にした退職した者を元の職場で再雇用する制度を導入すること	111人	7.0%
男性中心の職場運営を見直すこと	47人	3.0%
賃金や昇進などの男女間格差をなくすこと	103人	6.5%
パート、派遣・契約社員などの非正社員の労働条件を改善すること	154人	9.7%
職業上、必要な教育・訓練等の機会や内容を充実すること	22人	1.4%
男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること	216人	13.6%
仕事や職場環境についての相談窓口を充実すること	13人	0.8%
その他	12人	0.8%
無回答	29人	1.8%
合　　計	1,585人	100.0%

■その他への記入事項
・共働きの場合の単身赴任を命令しない
・個人の自由なので行政が口を出すとろくなことにならない
・設問がほぼ当てはまるのでは？
・ブラック企業をなくすること。モチベーションの改善
・女性の負担ばかり多く、男性は仕事のみ、女性は家事と育児を一人で担うことが多い
・働きやすい財政度
・各会社の理解力の向上、雰囲気、充実した環境づくり言いやすい職場、経営者それぞれが考え、人材を大切にするようにしなければ今後もかわらないし、経営者は目先の利益より人材を大切にすることが今後社会の利益につながることをより知ってほしい。そういう目先をかえれば職場のいじめ、いやがらせが少なくなり男女ともに楽しく生きやすい社会を作れるのではないだろうかと思う
・家族との協力
・夫婦間での家事・育児等で対等に話し、行動できること
・基本給の底上げ
・今のままで充分
・男女とも賃金・手当を増やす

「少子・高齢化」について

【問２０】「少子化」の理由はどのようなことが原因だと思いますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

「経済的に余裕がないから（育児や教育にお金がかかるなど）」が最も多く20.7%となっており、
これに「結婚しない人が増えたから」が16.3%で続いています。

選 択 肢	回答数	割合
経済的に余裕がないから（育児や教育にお金がかかるなど）	455人	20.7%
結婚しない人が増えたから	358人	16.3%
育児と仕事を両立させる社会的な仕組みが整っていないから	268人	12.2%
結婚年齢が上昇しているから	240人	10.9%
親となる人が子どもを取り巻く環境や将来に不安を持っているから	189人	8.6%
子どもを持つことよりも自分の趣味等を大切にする人が増えているから	181人	8.2%
女性の心理的、肉体的負担が大きいから（出産、育児など）	100人	4.6%
出産の際の医療体制に不安があるから	46人	2.1%
少なく産んで、十分手をかけて育てたいという人が増えているから	80人	3.6%
家が狭いといった住宅事情や遊び場等の生活環境が悪いから	40人	1.8%
出産や育児に対する夫婦間の理解・協力が足りないから	76人	3.5%
子どもがほしくないと思う人が増えたから	129人	5.9%
その他	13人	0.6%
わからない	8人	0.4%
無回答	11人	0.5%
合　　計	2,194人	100.0%

【問２１】「少子化」を解決するために重要なことはどのようなことだと思いますか。
あてはまるものを３つまで選んでください。

「勤務体制の整備（育児休業や短時間勤務など）や制度の拡充（育児休業中の身分や所得
補償、育児後の再雇用などを図ること」が最も多く20%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
男女とも育児に参画するようになるために、社会全体の意識を改革すること	201人	13.3%
子どもの出産・育児手当などを充実させること	269人	17.8%
男女とも育児に参画するようになるために、社会全体の意識を改革すること	215人	14.2%
勤務体制の整備（育児休業や短時間勤務など）や制度の拡充（育児休業中の身分や所得補償、育児後の再雇用などを図ること	303人	20.0%
育児支援ネットワークウを整備・充実させること	69人	4.6%
出産・育児の楽しさ、すばらしさをアピールすること	56人	3.7%
安心して出産できるような医療体制を整備すること	113人	7.5%
女性が社会に進出しないこと	6人	0.4%
家計に余裕があること	234人	15.5%
その他	24人	1.6%
無回答	23人	1.5%
合　　計	1,513人	100.0%

【問２２】本市で子どもを産み育てたいと思いますか。あてはまるものを１つ選んでください。

「どちらかといえば産み育てたい」が28.3%で最も多く、「産み育てたい」「どちらかといえば産み育てたい」の合計が6割弱となっています。

選 択 肢	回答数	割合
産み育てたい	174人	28.0%
どちらかといえば産み育てたい	176人	28.3%
どちらかといえば産み育てたくない	131人	21.1%
産み育てたくない	60人	9.6%
無回答	81人	13.0%
合　　計	622人	100.0%

（問２２を回答された方へお聞きします）
【問２２－１】そのように思われる理由はどのようなことですか。

（「産み育てたい」「どちらかといえば産み育てたい」と思う理由）

「産み育てたい」と回答された方は、地元だから、親・親戚がいるから、稚内が好きだから、自然豊かなまちだから、子育て環境や医療が充実しているから等の理由が多く、また、特に理由はない、これまで育ててきたから、こどもを育てるのに地域は関係ないといった意見も多く見受けられました。
「どちらかといえば産み育てたい」と回答された方は、「産み育てたい」と同様の理由が多数ですが、医療に対する不安、交通アクセスに対する不安、教育・子育て支援体制に対する不安が多く記述されていることから、この選択肢となったと推測できます。

■主な理由
・生まれ育った大好きなまちだから
・親類や知りあいがいるので安心できる
・周りの人達が優しいから、育児支援センターが充実しているから
・公営、民営を問わず、困った時の保育に関し、不便をあまり感じていない
・医療体制への不安

（「どちらかといえば産み育てたくない」「産み育てたくない」と思う理由）

「どちらかといえば産み育てたくない」「産み育てたくない」のどちらの回答においても、医療及び子育て環境への不安、働く環境への不安、交通体系の不便さ等のほか、人口減少に伴うまちの将来性への不安等が多く見受けられました。

■主な理由
・育児休業、再雇用、保育施設の整備が整っていない
・少子化、人口減少により、子育ての環境に不安があるから
・教育、大学など少なく都会に出なくてはならないのは大変です

【問２３】本市は子育てしやすい環境だと思いますか。
あてはまるものを１つ選んでください。

「どちらかといえばしやすい環境だと思う」が43.2%で最も多く、「しやすい環境だと思う」「どちらかといえばしやすい環境だと思う」の合計が5割強となっています。

選 択 肢	回答数	割合
しやすい環境だと思う	50人	8.0%
どちらかといえばしやすい環境だと思う	269人	43.2%
どちらかといえばしにくい環境だと思う	166人	26.7%
しにくい環境だと思う	56人	9.0%
無回答	81人	13.0%
合　　計	622人	100.0%

【問２４】自分の老後について不安はありますか。あてはまるものを１つ選んでください。

「ある」が87.6%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
ある	545人	87.6%
ない	58人	9.3%
無回答	19人	3.1%
合　　計	622人	100.0%

（問２４で「ある」と回答された方へお聞きします）
【問２４－１】それはどのようなことですか。あてはまるものをすべて選んでください。

「介護が必要になったときのこと」が最も多く24.5%となっており、、これに「生活費のこと」が21.8%で続いています。

選 択 肢	回答数	割合
働きたくても仕事がないこと	102人	6.5%
配偶者に先立たれた後の生活のこと	147人	9.4%
子どもや孫などと別居して孤独になること	59人	3.8%
介護が必要になったときのこと	385人	24.5%
友人・仲間とのつきあいのこと	27人	1.7%
適当な趣味がないこと	40人	2.5%
生活費のこと	343人	21.8%
健康のこと	318人	20.2%
住居のこと	106人	6.7%
住居のこと	29人	1.8%
無回答	15人	1.0%
合　　計	1,571人	100.0%

（問２４で「ない」と回答された方へお聞きします）
【問２４－２】老後の生活を安心で充実したものとするためには何が必要だと思いますか。

■必要だと思うこと
・稚内の医療体制（8件）
・年金（5件）
・孤独死
・弱者への姿勢が欠如
・長男の嫁として、利尻のお寺、お墓のこと
・年齢で仕事がない
・楽しむところ(施設)がない
・独身なので頼れる人がいない（2件）
・生活交通（2件）
・働きたくなくても働かされそうな為（人材不足と自分の今の仕事の後輩がいない為）

人権・男女間の暴力について

【問２５】「女性の人権が尊重されていない」と思うことがありますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

「婚姻・戸籍や社会通念上の制度、慣習からくる差別」と「女性であることを理由とした、伝統行事などへの参加制限」がほぼ同数で2割弱となっています。

選 択 肢	回答数	割合
婚姻・戸籍や社会通念上の制度、慣習からくる差別	206人	16.2%
職場におけるセクシュアル・ハラスメント	201人	15.8%
女性に対するストーカー（つきまとい行為）、痴漢行為	174人	13.7%
女性であることを理由とした、伝統行事などへの参加制限	203人	16.0%
売春・買春（援助交際を含む）や女性の働く風俗営業	110人	8.6%
夫・恋人からの身体的・精神的な暴力	144人	11.3%
女性のヌード写真などを掲載した雑誌や広告	59人	4.6%
女性の容姿を競うミス・コンテスト	33人	2.6%
その他	25人	2.0%
無回答	117人	9.2%
合　　計	1272人	100.0%

【問２６】ドメスティック・バイオレンス（DV）を見聞きしたことはありますか。
あてはまるものを１つ選んでください。

「テレビや新聞などで見聞きしたことがある」が70.6%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
身近に当事者（被害者及び加害者）がいる	79人	12.7%
身近な人に相談を受けたことがある	29人	4.7%
テレビや新聞などで見聞きしたことがある	439人	70.6%
見聞きしたことはない	43人	6.9%
言葉も聞いたことがない	3人	0.5%
その他	7人	1.1%
無回答	22人	3.5%
合　　計	622人	100.0%

【問２７】ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害にあったことがありますか。
あてはまるものを１つ選んでください。

「ある」が9%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
ある	56人	9.0%
ない	544人	87.5%
無回答	22人	3.5%
合　　計	622人	100.0%

（問２７で「ある」と回答された方へお聞きします）
【問２７－１】実際にどのような被害を受けましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

「身体的」が最も多く、36.5%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
身体的（例：殴られる・蹴られる・突き飛ばされるなど）	38人	36.5%
精神的（例：無視をされる・他人の前で欠点を言われる・脅かされるなど）	31人	29.8%
金銭的（例：生活費を渡してもらえない・家の金を持ち出される・無断で借金を作られるなど）	19人	18.3%
性的（例：望まない性行為を強要される・避妊に協力的ではないなど）	14人	13.5%
無回答	2人	1.9%
合　　計	104人	100.0%

【問２７－２】ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害を受けたときに相談しましたか。
あてはまるものを１つ選んでください。

「相談しなかった」が62.5%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
相談した	20人	35.7%
相談しなかった	35人	62.5%
無回答	1人	1.8%
合　　計	56人	100.0%

（問２７－２で「相談した」と回答された方へお聞きします）
【問２７－３】誰に相談しましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

「知人・友人」が最も多く、40.6%となっており、これに「家族」が31.3%で続いています。

選 択 肢	回答数	割合
家族	10名	31.3%
知人・友人	13名	40.6%
市役所・宗谷総合振興局などの公的機関窓口	1名	3.1%
警察	4名	12.5%
民間の相談窓口	0名	0.0%
その他	3名	9.4%
無回答	1名	3.1%
合　　計	32名	100.0%

（問２７－２で「相談しなかった」と回答された方へお聞きします）
【問２７－４】相談しなかった理由はどのようなことですか。あてはまるものをすべて選んでください。

「相談しても無駄だと思った」が最も多く、20%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
どこに相談すればよいのかわからなかった	13人	13.0%
相手（配偶者・恋人）に知られるのが怖かった	5人	5.0%
相談しても無駄だと思った	20人	20.0%
自分が我慢すればよいと思った	17人	17.0%
大げさにしたくなかった	14人	14.0%
相談するのが恥ずかしかった	6人	6.0%
余裕がなく、相談しようという考えが思い浮かばなかった	7人	7.0%
自分にも悪いところがあると思った	9人	9.0%
相談するほどでもないと思った	5人	5.0%
その他	3人	3.0%
無回答	1人	1.0%
合　　計	100人	100.0%

【問２７－５】男女間の暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

「被害者が届け出をしやすいようにする」が最も多く、19.1%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
被害者の話をよく聞く（相談窓口の充実）	243人	11.9%
犯罪の取り締まりを強化する	245人	12.0%
法律・制度の制定や見直しを行う	247人	12.1%
被害者が届け出をしやすいようにする	392人	19.1%
過激な内容のDVD等の販売や貸し出しを制限する	82人	4.0%
男女平等や性についての教育を充実させる	127人	6.2%
暴力をふるう加害者へ教育カウンセリングを行う	201人	9.8%
暴力に反対する市民運動を盛り上げる	34人	1.7%
テレビや新聞、インターネットなどが倫理規定を強化する	90人	4.4%
DV（ドメスティック・バイオレンス）防止法について啓発する	125人	6.1%
その他	28人	1.4%
特に対策の必要はない	7人	0.3%
無回答	39人	1.9%
合　　計	1,860人	90.9%

【問２７－６】ドメスティック・バイオレンス（DV）などの被害を受けている人たちの相談窓口が稚内市に設置されていることを知っていますか。
あてはまるものを１つ選んでください。

「知らない」が77%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
知っている	115人	18.5%
知らない	479人	77.0%
無回答	28人	4.5%
合　　計	622人	100.0%

女性の政策参画について

【問２８】現在、政治の場や職場、地域活動の場などで、女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。
それぞれあてはまる数字を１つ選んでください。

「十分に反映されている」「ある程度反映されている」の合計が4割を超えたのは①②の2項目でした。
全ての項目で「あまり反映されていない」「全く反映されていない」の合計が男性より女性の回答が多くなっています。

①職場で

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 十分に反映されている	67人	10.8%	15.8%	6.5%
2. ある程度反映されている	239人	38.4%	37.5%	39.0%
3. あまり反映されていない	113人	18.2%	17.5%	18.8%
4. 全く反映されていない	18人	2.9%	1.8%	3.9%
5. どちらともいえない	49人	7.9%	9.8%	6.3%
6. わからない	104人	16.7%	13.3%	19.6%
無回答	32人	5.1%	4.2%	6.0%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

②地域社会で（町内会など）

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 十分に反映されている	39人	6.3%	8.4%	4.5%
2. ある程度反映されている	226人	36.3%	37.5%	35.1%
3. あまり反映されていない	89人	14.3%	14.4%	14.3%
4. 全く反映されていない	8人	1.3%	0.4%	2.1%
5. どちらともいえない	48人	7.7%	8.4%	7.1%
6. わからない	183人	29.4%	26.7%	31.8%
無回答	29人	4.7%	4.2%	5.1%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

③市や北海道の政治の場で

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 十分に反映されている	25人	4.0%	6.7%	1.8%
2. ある程度反映されている	173人	27.8%	30.9%	25.0%
3. あまり反映されていない	139人	22.3%	21.8%	22.9%
4. 全く反映されていない	11人	1.8%	1.4%	2.1%
5. どちらともいえない	63人	10.1%	10.5%	9.8%
6. わからない	183人	29.4%	24.2%	33.9%
無回答	28人	4.5%	4.6%	4.5%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

④国の政治の場で

選 択 肢	回答数	割合	男性	女性
1. 十分に反映されている	21人	3.4%	5.6%	1.5%
2. ある程度反映されている	143人	23.0%	28.4%	18.5%
3. あまり反映されていない	181人	29.1%	26.3%	31.3%
4. 全く反映されていない	35人	5.6%	6.3%	5.1%
5. どちらともいえない	62人	10.0%	9.1%	10.7%
6. わからない	152人	24.4%	19.6%	28.6%
無回答	28人	4.5%	4.6%	4.5%
合　　計	622人	100.0%	100.0%	100.0%

【問２９】今後そのような場にもっと女性が進出していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものを３つまで選んでください。

「男性中心の組織のあり方を改めること」が最も多く、21.6%となっています。

選 択 肢	回答数	割合
「男性は主、女性は従」という性別で役割を決める考え方を改めること	239人	18.8%
男性中心の組織のあり方を改めること	275人	21.6%
男女がほぼ同数、あるいは一定数下回らないよう、性別による定員基準を設けること	101人	7.9%
女性自身が積極的に参画しようとすること	248人	19.5%
女性の持っている能力を開発するための機会を設けること	249人	19.5%
女性が活躍する団体やグループ活動を支援すること	90人	7.1%
女性が進出する必要はない	16人	1.3%
その他	22人	1.7%
無回答	34人	2.7%
合　　計	1,274人	100.0%

【問３０】男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れるべきことはどのようなことだと思いますか。
あてはまるものを５つまで選んでください。

「男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う」が最も多く18%となっており、これに「保育所や児童クラブなどの施設や育児サービス、制度の充実を図る」が続いています。

選 択 肢	回答数	割合
男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行う	381人	18.0%
保育所や児童クラブなどの施設や育児サービス、制度の充実を図る	266人	12.5%
高齢者や障害者に対する施設・介護支援などの福祉政策を充実する	255人	12.0%
女性を政策や方針決定の場に積極的に登用する	69人	3.3%
女性の就労の機会を増やしたり、職業教育や訓練を充実する	96人	4.5%
職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	124人	5.8%
法律や制度の面での見直しを行う	144人	6.8%
教育の場で男女の平等と相互理解や協力についての学習を充実する	117人	5.5%
相談事業を充実させる	50人	2.4%
男女が地域活動に参画しやすい環境整備を行う	79人	3.7%
各専門機関の連携によるドメスティック・バイオレンス（DV)の被害者の救済システムを整備する	70人	3.3%
シェルター（DV被害者の救済場所）を設置する	65人	3.1%
女性団体や女性のリーダーを養成する	22人	1.0%
女性の生き方に関する情報提供や交流の場等のセンターを充実する	24人	1.1%
広報紙やパンフレットなどによる啓発を行う	7人	0.3%
男女平等、男女共同参画に関する講演会や講座などの学習機会を増やす	39人	1.8%
男性を対象とした家事や育児などの講座、教室などを充実する	71人	3.3%
介護サービス制度を充実する	153人	7.2%
各国の女性との交流や情報提供など国際交流を推進する	22人	1.0%
その他	9人	0.4%
特にない	20人	0.9%
無回答	39人	1.8%
合　　計	2,122人	100.0%

その他

【問３１】男女共同参画についての考えやご意見

記載していただいた意見の中の一部を紹介しています。
明らかな誤字・脱字を除き、原則的には記入された内容をそのまま掲載しています。また、個人が特定できる部分があるものについては、その部分を削除しています。

■男性や女性、社会等の意識に関すること

・女性の視点ばかり取り上げられているが、今は男も十分に負担が大きい時代、ことさら女性ばかりが弱者であるという考えはおかしい、すべてはケースバイケースなので画一的な見方はやめてほしい
・もっと性別に関係なく、就職できるような社会にしてもらいたい。女性に（子育てしている人）働きやすい職場を増やして欲しい
・男女ともに意識を上げることが必要だと感じます。意識の高い方もおられますが、今後は学校等の教育やしつけの中で、男女の区別なくそうという機会が与えられるのがふつうであると認識されるように教えられるべきだと思います
・基本は、お互いを思いやる気持ちがあれば、職場でも家庭でも、性別とか関係なく、接することができると思います
・男は仕事、女は家庭、という考えではなく、「主夫」という考え方がもっと一般的になるといい。知人に「主夫」がいるが肩身が狭い
・全ての人が平等とは考えにくく、男は男の仕事、役割。女は女の仕事、役割があるはずです。それぞれの立場でしっかりと自分を自覚した行動をしてほしい、なんでも平等平等と声高く言うことには少し疑問があります
・昔に比べたらずっと男女均等になって来てると思います。男の人が女の人に対して「女だから」とか「女のくせに」とか女の人が男の人に対して「男だから」とか「男のくせに」こんな考え方がなくなればいいのでは
・男女どちらでもできる業務等は積極的に共同参画を実行できるが、体力や体形など身体的な部分が求められる場合もあり、すべてにおいて男女別なしというわけにはいかないが、女性・男性の身体・精神的特徴を活かしていくべき
・男性の意識改革と女性の積極性が必要だと思う。男性に変なプライドがあるうちは難しいとも思う。私は今のままでも充分幸せですが…
・今の世代は、考え方も男女平等になってきていると思いますが、社会がまだまだ男女の差別が多いと思います。もっともっと、女性を大切に生き生きと生活できる社会へ法整備と意識改革を望みます
・性別を問わず男は女はこうあるべきという歴史が長い国民なので、時間がかかる問題とは思うが比較的互助の精神が高いことと新しいことに対する抵抗感が軽目の市と思っている。全体的な考え方が自分本位ではなく、長い目でみた場合が基本となっていけば、良い方向に進むかと思う。維持しつつ、良い方向へは時間のかかる取組なので、子ども達の教育が重要かと考える
・むずかしい問題です。男性が得意な事、女性が得意な事ってあると思いますし、すべて平等というのはむずかしいです。相互理解・協力し合うと言う事だと思います
・女性には女性しか出来ないこと、男性には男性しか出来ないこともあるので、そこを認識したうえで共存できればよい
・女性が平等や社会進出を言う前に結婚や出産から逃げず親に子どもを育ててもらうなどせず、女性がすべき役割をきちんとはたしたうえで、考えた方が良いと思う。男女平等を語る女性ほど自分の家族や子育てをおろそかにしていて責任が足りないと思う
・世間一般の職場では、まだ、どちらとも言えないことがある様な事を聞いた事ありますが、現職場は平等で能力を発散できておりますが、男性の力を借りないと解決できない事もありますので、全てが平等にはむりだと思っております
・男女共同参画についての考え方は一定程度理解できるが、行政等が取組むことにより、男性に対する負担が増えていると感じる

・男女共同参画という議題については、どうしても女性保護の視点のみが先行しがちだが、男性社会のあり方（長時間労働や職場における過度な上下主従関係やパワーハラスメント、男ならこうでなければならないといった意識）の見直しをはかることも重要な命題であり、そこを改めることで女性にとっても生きやすい社会をつくることにつながるのではないかと思う
・若い世代は男女差別について理解があると思うので、上の世代への説得が必要だと思う
・もっと性別に関係なく、就職できるような社会にしてもらいたい
・性別に関わらず、一人ひとりの人権を尊重した社会を願う。子育てや介護など、女性のみが担うことなく、家族や社会で協力しながら取り組める体制をつくってほしい
・男女共同参画するには、仕事と家庭の両立が必要になる。そのためには、会社の理解が必要である。共働きになるので、夫婦で家事の分担をしないと。どちらか片方だけにしわ寄せがくるのでお互いの話し合いも必要

■法律・就労・雇用・賃金等の制度に関すること

・女性が働き続けて結婚、出産、子育てができるようにしてほしい。働く職員不足で、休む（長期休暇）ことができない。そのため退職することになる。保育料が高すぎ、子供が欲しくても制限ができる。
・本市に住んでいて男女の差別的なことを感じたことはない。ただ、保育所や育児サービスについては、国家資格を持っているのに働けない状況が続いている。本市だけではないが、早く女性が出産後働きたいと思ったときに働ける世の中になってほしい
・制度はあっても利用できない産休、育休では意味がない。一人ひとりの考え方が変わらない限り、男女共同参画は難しい
・女性に対して金銭的な所をもっと考えたらいいと思う。経済的にも男とくらべたら優遇されていない。今のご時世、昔とちがい、女も働く時代なのだからもっとその辺考えるべき
・出産後の職場復帰や男性の産休等、一般企業でも浸透するよう意識改革と地域での促進を
・就労についてですが、現実、大企業に於いては実現可能でしょうが小規模、零細企業にとっては、育児休業（休暇）、介護休業（休暇）等、取得することは限りなく不可能に近いのが現状だと思います。格差はなかなか改善できないと思います
・就職出来る場がたくさんある社会になってほしいです
・労働があり、報酬を得、生活ができる事を自覚する事が大事だと思う
・育休、男性も取れるような会社が増えたら便利だと思う

■教育・子育て支援に関すること

・幼いころ（子育て時）に親がもっと接する時間を多く持てる期間が多ければ親も気持ちに余裕があって、子供も心が豊かになり、それの延長で大人になるわけで、世の中あまりにも、物欲、自己中心がありすぎる“人はハートです”心を育てるべきと思います
・育児や不妊治療で一度退職したら再就職しづらい。安心して戻れるようになったらいいと思う。サポートする側の待遇も見直してほしい
・子育てしやすい環境づくりを国を挙げて取り組む必要があると思います
・女性の社会進出できない要因→育児・介護（環境整備必要）ここがまだおくれている
・子育てがゆったりとできるようになってほしい
・女性が社会に参画するためには出産・育児を社会がサポートする体制が必要となるので、地域社会の意識をより変えていくことが望ましい
・不妊に対する援助をもっとしてほしい

■その他

・次世代に任せる
・男女共同参画という言葉自体があるということが、男女差別のような気がします。一自治体で解決できる問題ではないのでそこまで力を入れなくてもよいのでは？もっと必要なところにお金を使っていただきたいです
・老後安心して生活ができる環境づくりをしてください